

2019年5月



NPOグラウンドワーク東海

パートナーシップで地域の環境創造を

第66号 News Letter

特定非営利活動法人グラウンドワーク東海

〒461-8508 名古屋市東区東桜 2-3-7-616

TEL/FAX 052-935-7430

事務局携帯 080-5157-7203

E-mail npo.gw-tokai@ab.auone-net.jp

<http://www.npo-gwtoukai.org/>

NPO 法人 グラウンドワーク東海

2019 年度総会のご案内

以下のとおり開催しますので、会員の皆様のご出席を求めます。

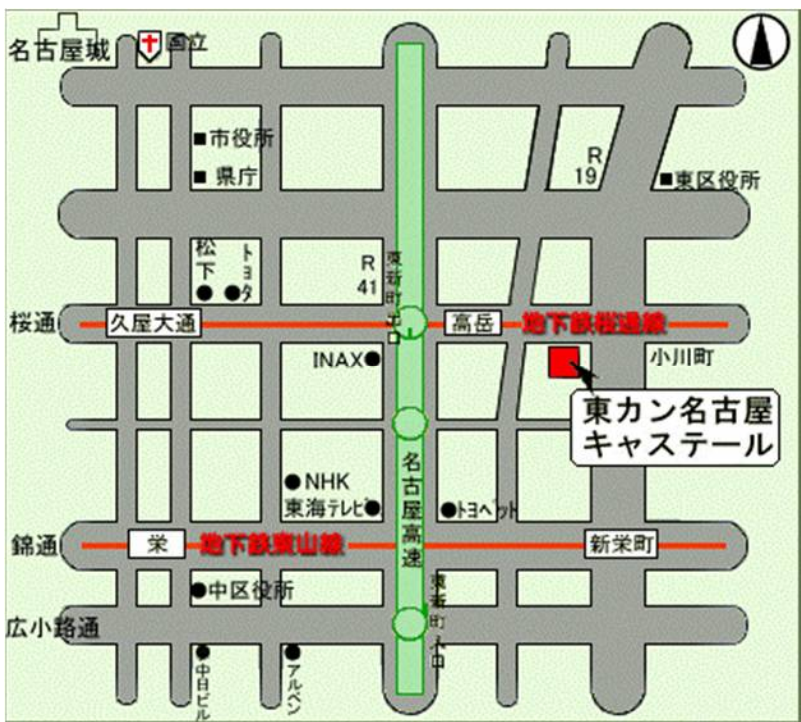
なお、総会において正会員、団体・企業会員として議決権を行使するためには 2019 年度会費を総会までに納入していただく必要があります。また協力会員の方は議決に参加できませんが、総会は公開で開催しますので是非ご出席ください。

理事長 竹谷博之

日時 6月15日(土) 13時30分開会

場所 名古屋市東区東桜 2-3-7

※東カン名古屋キャステール 2F 会議室 (グラウンドワーク東海事務局と同じビルです)



総会議題

1. 審議事項

第1号議案 平成30年度活動報告について

第2号議案 平成30年度活動計算書及び会計監査結果承認について

2. 報告事項

第1号報告 平成31年度事業計画及び予算について

3. その他

役員選出について

※議題については、個人情報を除いて事前にホームページに掲載します。

NPO 法人グラウンドワーク東海

2019 年度第1回フォーラム

前回(1月26日)に引き続き雑草との付き合い方について意見交換をします。河川堤防植生と周辺住民の付き合い方、雑草料理など「私なら【雑草】とこう付き合うをテーマに開催します。

日時 6月15日(土)14:00~17:00

場所 〒461-0005 愛知県名古屋市東区東桜 2-3-7 東カンビル 2F 会議室(総会と同じ場所)

参加費 無料

懇親会 (参加希望者対象) GW東海事務局又は近くで企画。

参加費 3,000 円~4,000 円

内容

★ゲストスピーカーのお話①

河川財団名古屋事務所 所長 山内さん(豊田市在住)

「堤防植生と堤防沿いの住民の思い(仮題)」

★ゲストスピーカーのお話②

合同会社つむぎで 前田 純さん(北名古屋市在住・雑草料理研究家)

「雑草料理は楽しい」(仮題)

★参加者による自由な意見交換

参加申込 グラウンドワーク東海会員の方は総会案内に同封のハガキにてお知らせください。一般の方は事前申し込み不要で自由に参加いただけます。

今年のサマセミ案内

今年も夏休み前の3日間、夢の学校が生まれます。

だれでも無料で参加できるので、はじめての方も、ぜひご参加ください。

第31回 愛知サマーセミナー2019 概要

名称	第31回 愛知サマーセミナー
主催	第31回愛知サマーセミナー実行委員会 ・愛知県私立学校教職員組合連合 ・私学をよくする愛知父母懇談会 ・愛知県高校生フェスティバル実行委員会 ・NPO法人アスクネット
後援(予定)	愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、県内市町村及び各教育委員会 ※後援名義を使用されたい方は、愛知サマーセミナー実行委員会まで必ずお問い合わせください
日程	2019年7月13日(土)、14日(日)、15日(月・祝)の3日間
時間割	1限: 9時30分~10時50分 2限: 11時10分~12時30分 3限: 13時10分~14時30分 4限: 14時50分~16時10分
会場	南山大学・南山高等学校(男子部・女子部)・南山大学付属小学校
講座数	未定
お問い合わせ	第31回愛知サマーセミナー実行委員会 TEL: 052-881-4357 FAX: 052-881-4877 メール: 2019summer@ask-net.jp

グラウンドワーク東海も関係者と共同して講座を設ける予定です。

会員の皆様で講座設置希望があれば登録手続きを代行します。事務局へメールでご相談ください。

大きい字で読みたい方、サマセミって何？

→サマーセミナーのURL

<http://www.samasemi.net/2019/index.html>

サマーセミナー会場案内



南山高等・中学校 男子部

〒466-0838 名古屋市昭和区五軒家町6番地

TEL : 052-831-6455 FAX : 052-831-7059

- 地下鉄をご利用の場合
地下鉄鶴舞線「いりなか」駅2番出口より徒歩約3分
- バスをご利用の場合
市バス「秋中」バス停より徒歩約3分
市バス「上山」バス停より徒歩約3分

2018 年度第 2 回フォーラム意見交換記録概要

【雑草】とどう向き合う？

日時：2019 年 1 月 26 日（土）13:30～17:00
場所：豊田防災ステーション（豊田市森町 1 丁目地内）
ここでは当日の話題提供要旨と竹谷理事長まとめを掲載します。詳細はホームページをご覧ください。
竹谷理事長まとめ

- 1 情報時代だが自然との付き合いは低レベルになっている。肌感覚になっていないので生活の知恵につながらない。植物や虫の生態を改めて具体的に知ることから始めよう。
- 2 雑草とは何かを考えなおさねばならない。身の回りの植物の利用方法、価値の理解が必要。雑草学会は目的を阻害する植物を雑草とし、除外するとしているが昔は有用だったものもある。くらしにどう生かすか知恵を持つことが必要。利用する文化があれば雑草とならない。

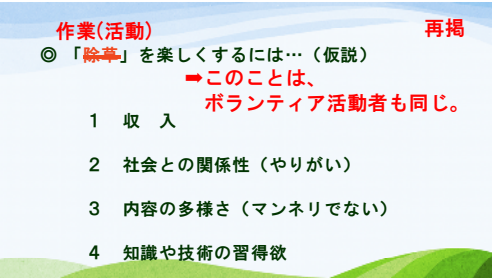
話題提供

【テーマ1】緑地管理のモチベーション



使して緑地管理にあたります。

しかしながら、緑地管理の 8 割方は雑草に起因するもので作業内容はほぼ「除草」であり、この「除草」こそが辛くてイヤというのが本音です。桜が散ってから文化の日までの約 200 日間、週休 2 日でほぼ除草作業に従事するのは、本当に過酷です。イヤな作業をイヤでなくするには、①除草自体を楽しくするか、②除草しなくてよくするか、③残り 2 割の(除草以外の)作業を大事にするかの 3 つが考えられます。



団体)と協働すること等によりスタッフの負担を軽減することの方が現実的です。除草作業の量を減らすことには限界がありますので、結果、①の「除草を楽しくする」ことをいつも考えていました。

「除草」を楽しくする

あらためて、『除草を楽しくするにはどうしたらよいか』について仮説を立ててみました(右図)。

公園スタッフは給料をもらっていますから「①収入」はあることを前提としますと、残る②～④の 3 つの要素がキーポイントになってくるのではないのでしょうか。

「②社会との関係性(やりがい)」を創る



がいる中でこの作業を行うと、立ち止まって写真を撮る人、話しかけてくださる方がチラホラ現れます。反応が良いと公園のブログに掲載されることもあります。この作業をした本人はとても楽しいのですが、これは主に「社会との関係性」を満足したから楽しかったのでしょうか。

「③内容の多様さ(マンネリでない)」を確保する

ハロウィンの時期には、おばけやカボチャの絵を描きました。肩掛式刈払機を使う作業ですから普段の作業と変わりはないのですが、これはもう明らかにマンネリなんかではなく、作業員の「③内容の多様さ」の欲求にも働きかけをしていたと思われます。

「④知識や技術の習得欲」を満たしてあげる
その昔は芝生地でしたが人通りの多い園路沿いの重要

緑地管理のなかの「除草」

愛・地球博記念公園における緑地管理の対象は、芝の球技場・広場、花畑・花壇、日本庭園、植込、法面、樹林地や池・湿地などバリエーション豊かで、それぞれの場所・時季ごとに様々な条件や目的・意向が働き合っておりとても複雑です。知識・経験やつながりをフルに駆

な場所であったことから、思い切って花畑へ変更した場所です。ワイルドフラワーは十種類程度の種をブレンドして一時期に種まきし、その後、2～3 か月にわたり異なる種類の花々が次々に咲いていくのを楽しみますが、この際、種のブレンドをその場所の条件に合わせて設計することが重要な仕事になります。当公園ではそれまで種をブレンドした経験がなかったので、当時の担当者は「④知識や技術の習得欲」をそそられたのではないかと思います。その年のワイルドフラワーは一部で雑草に負けて失敗した部分もありましたが、失敗しても「次はうまくやろう」と担当者自らやる気になってくれ、スタッフ全体のモチベーションも上向いたように感じました。

まとめ

先述した『除草を楽しくするにはどうしたらよいか』の仮説は、グラウンドワーク活動にも応用できる部分があるように感じます。4 つの項目のすべて、もしくはそれらの一部を満足させることは、活動を継続・発展させていくうえでも「効果あり」なのではないでしょうか。加えて、第 3 者との関わりをうまく創出・活用することが決め手のようにも感じます。

【テーマ2】危険生物・雑草地編

(公社)愛知県ペストコントロール協会技術委員長 森重樹
愛知県内ハチ駆除 330 件／年間実施

害虫とは、人間に対し病気媒介、アレルギー等有害性、精神的害をもたらす虫をいう。今回のフォーラム関連では雑草地＝非管理地に生息する生物(害虫含む)生息地と考える。

※写真は全て当日の森さん資料から引用した。

●ダニの危険について

最近豚コレラが問題になっているが、イノシシ等の野生生物が人間の住まい近くにきていることが問題である。

イノシシの「ぬた場」はイノシシがマダニを落とす場であるから「ぬた場」が近くにある周辺はマダニ類の生息の恐れがある所。

ビオトープは野生動物が来る場＝ダニを落とす場と考える。マダニ類は節足動物でクモ綱に分類され脚は 8 本である。

通常は樹木などの葉裏に潜み、生物の振動、体温、Co2(呼吸)を感じて葉表へでて動物にとりつく。爪で動物から落ちないようにしがみつき、噛んで吸血するが人間が噛まれた場合、ダニの頭が皮膚に入るので人力で除去不能のため手術し切除する。噛まれることも大変であるが近年発見された新興感染症である重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の媒介が懸念される。

最近、過疎地で SFTS ウィルス死亡者が増加している。増加原因として過疎化で雑草管理が無理となり家屋が雑草に囲まれイノシシが餌探しに容易に家屋に接近しダニを落とし SFTS に感染というパターンが考えられる。感染死亡者はなぜか 60 歳くらいが多い。致死率は 20～30%にもなるという報告も出されている。

他の事例として①公園の野良猫に餌づけ→何らかの理由でネコに傷つけられ SFTS 感染。②家庭菜園を野生動物が荒らしに来てダニを落とし住民に感染。③残飯漁りで都会へも外来野生化動物(アライグマ、ハクビシンなど)が来ているのでダニ感染の恐れがある。また最近 5 か年くらいで増加している。殺虫剤散布が×になった影響かもしれない。

対策として、殺虫剤散布は法的にできないためダニ管理は難しい。山へ入る人は特に危険性の認識をして密閉服を着用するなどしてもらいたい。

●ハチ(特にスズメバチ)の危険について

オオスズメバチは刈り草山積みの底部、巣が作りやすいような人工物、柔らかい土、堆肥場に巣を作って住む。巣のある場所にパターンはない。家屋でも思いがけないところに作っているの、どこでもハチが出る可能性がある。特に刈り草は放置すると巣を作られやすいので原則撤去しないといけない。

しかし、スズメバチは餌がいなくなるので冬を越せない。ハチ被害としてアレルギーショックがあるので山作業者は予防注射をしてから入山している。ボランティアでも茂みに入る場合はハチの出入りの有無を確認してからとすべき。化学物質、香水など刺激物質は山へ持ち込まないこと。

スズメバチの針は皮革でも通すので人間の着用物では防げないが、視力は弱く背景とのコントラストで目標を判断するので、目立つ服はつけず急な動きをしないこと。スズメバチはまず耳元を飛んで威嚇するので低姿勢で動かず、ゆっくり後退する。熊対応と同じと考えてよい。

しかし、全てのハチが問題というわけではない。尻の黒いハチは無害。トラ模様がスズメバチと判断してよい。写真はダニが食いついた肌を専用手術器具で取り出したところ。

●ヒアリ(外来有害生物)の危険について

最近報道が少ないが強力な毒を持っている。すでに愛知県内ではあちこちに生息しているので、見つけてもやたらに手を出さないこと。枯葉、枯れ木に巣を作る。雑草管理ができないと増加の恐れがある。

